



周りの木々も色づき、すっかり秋の景色になりました。季節の変わり目は特に体調を崩しやすいので十分に気を付けましょう。

10月10日の「目の愛護デー」にちなんで、今回は「視力」についてのお話です。

乳幼児期は視力の発達に

重要な時期



子どもの視力は生まれてから発達が始まり、生まれたばかりは0.01ほどでぼんやりとしか見えません。毎日ものを見ることで、しだいに視力が発達し「見える」ようになります。視力の発達する期間（生後～6歳ぐらい）に、強い遠視や斜視（ピントがあっていない状態）などがあると、視力が悪い状態のまま発達が止まってしまいます。

前髪、目に入っていないですか？

前髪が目の中にくりかえし入ることで角膜を傷つけ、細菌感染を起こしたり視力低下を招いたりすることがあります。前髪は目に入らないように、切るかゴムで束ねるようにしましょう！

～こんな見方は危険信号～

- ・目を細めて見る
- ・横目でものを見ることが多い
- ・テレビや絵本に近づいて見る
- ・明るい戸外でまぶしがる
- ・上目遣いに物を見る
- ・目つきが悪い、目が寄っている
- ・見る時に首を曲げたり、頭を傾けたりする



このような症状が見られると斜視や弱視の可能性が考えられます。子どもは視力が悪いことを自覚できないため、上記のような症状がないか普段から気にかけて見るようにしてください。